サイボウズ リモートサービス
インストールマニュアル

バージョン 3.1.5/3.1.6/3.1.7

© Cybozu

商標について

記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。
個別の商標･著作物に関する注記については、弊社の Web サイトを参照してください。
https://cybozu.co.jp/logotypes/other-trademark/
なお、本文および図表中では、(TM)マーク、(R)マークは明記していません。

目次

■ 導入ガイド

パソコンからアクセスする場合 6
インストール作業 6
システム管理者の作業 6
ユーザーの作業 7
携帯電話からアクセスする場合 8
インストール作業 8
システム管理者の作業 8
サイボウズ製品側の設定 9
サードパーティ製品側の設定 9
リモートサービスマネージャー側の設定 9
ユーザーの作業 10

■ インストールマニュアル

インストールの前に確認すること 12

■ Windows 環境

インストールする 13
バージョンアップする 18
アンインストールする 22

■ Linux 環境

インストールする 24
バージョンアップする 27
アンインストールする 30

■ その他

初期設定を実行する 31
初期設定の注意 31
初期設定を実行する 31
データをバックアップする 34
バックアップするディレクトリーとファイル 34
バックアップ作業の手順 35
データをリストアする 36

サーバーを移行する 38
ファイル構成 40
サイボウズ Office とリモートサービスをあわせてバージョンアップする 41
システム管理者の作業 41
Office 製品のみ使用している場合 41
デヂエを使用している場合 42
ユーザーの作業 42

導入ガイド

リモートサービスを導入するための手順を、アクセス方法別に説明します。

パソコンまたは携帯電話からのアクセス

パソコン

携帯電話

スマートフォンからのアクセス

iPhone

Android

補足 ● パソコンからのアクセスと同じ方法で、iPhoneのSafariを使用し、サイボウズ製品にアクセスできます。

導入ガイド

パソコンからアクセスする場合

パソコンから製品にアクセスする手順を説明します。

- 外出先や自宅のパソコンのWebブラウザーを使用し、サイボウズ製品にアクセスできます。

- インストール作業
- システム管理者の作業
- ユーザーの作業

インストール作業

システム管理者が、サーバーにリモートサービスマネージャーをインストールします。

- 利用製品にアクセスできる環境にあるサーバーに、リモートサービスマネージャーをインストールします。
- すでに他の用途のためにリモートサービスマネージャーをインストールしている場合は、改めてリモートサービスマネージャーをインストールする必要はありません。

ステップ1

動作環境を確認する

リモートサービスマネージャーの動作環境を確認します。利用製品がリモートサービスマネージャーに対応していることも確認します。

製品情報の動作環境

ステップ2

リモートサービスマネージャーをインストールする

インストールする(Windows環境)
インストールする(Linux環境)

ステップ3

初期設定を開始する

リモートサービスを使用するために必要な初期設定を開始します。
クライアント証明書の登録時には、「リモートサービス」を選択します。

初期設定を実行する

システム管理者の作業

システム管理者は、リモートサービスマネージャーでリモートサービスのシステム管理をします。

リモートサービスマネージャーにアクセスする

ステップ1

利用製品を登録する

リモートサービスを経由して利用する製品を登録します。

利用製品を追加する

ステップ2

利用ユーザーを登録する

リモートサービスを経由して、サイボウズ製品を利用するユーザーを登録します。
サードパーティ製品の場合、利用ユーザーを登録する必要はありません。

利用ユーザーを追加する

ステップ3

利用する証明書を設定する

リモートサービスのセキュアアクセスオプションが有効な場合に設定できます。

ステップ4

ユーザーに連絡する

ステップ2で登録したユーザーに、リモートサービスのアクセス情報(アクセスURL、クライアント証明書)を連絡します。

アクセス情報をユーザーに連絡する

補足

- リモートポータル機能を使用し、ポータル画面から複数の利用製品にアクセスしたり、システム管理者からのお知らせを確認したりできます。

リモートポータルを設定する

ユーザーの作業

ユーザーは、リモートサービスを使用するWebブラウザーに、クライアント証明書を登録し、利用製品にアクセスします。

- iPhoneのSafariでリモートサービスを使用する場合も、同様の手順です。

ステップ1

アクセス情報を入手する

システム管理者から、次の情報を入手します。

- クライアント証明書
- クライアント証明書の登録パスワード
- リモートサービスのアクセスURL

ステップ2

クライアント証明書を登録する

使用するWebブラウザーに、ステップ1で入手したクライアント証明書を登録します。

クライアント証明書を登録する

ステップ3

製品にアクセスする

ステップ2でクライアント証明書を登録したWebブラウザーを使用し、ステップ1で入手したアクセスURLにアクセスします。

パソコンから製品にアクセスする

携帯電話からアクセスする場合

携帯電話から製品にアクセスする手順を説明します。

- 各製品のオプションであるケータイを利用し、携帯電話からサイボウズ製品にアクセスできます。
- iPhoneのSafariを使用する場合、パソコンからアクセスする場合 を参照してください。
- スマートフォンからアクセスする場合は、KUNAIを利用します。

  サイボウズ KUNAI

補足
- 携帯電話からアクセスする場合、設定によってはログイン画面を表示せずにアクセスできます。
  詳細は、よくあるご質問を参照してください。

- インストール作業
- システム管理者の作業
- ユーザーの作業

インストール作業

システム管理者が、サーバーにリモートサービスマネージャーをインストールします。

- 利用製品にアクセスできる環境にあるサーバーに、リモートサービスマネージャーをインストールします。
- すでに他の用途のためにリモートサービスマネージャーをインストールしている場合は、改めてリモートサービスマネージャーをインストールする必要はありません。

ステップ1

動作環境を確認する

リモートサービスマネージャーの動作環境を確認します。利用製品がリモートサービスに対応していることや利用製品でケータイが使用できることも確認します。

製品情報の動作環境

ステップ2

リモートサービスマネージャーをインストールする

インストールする(Windows環境)
インストールする(Linux環境)

ステップ3

初期設定を開始する

リモートサービスを使用するために必要な初期設定を開始します。
クライアント証明書の登録時には、「リモートサービス」を選択します。

初期設定を実行する

補足
- 次のサイボウズ製品を使用する場合は、ケータイを使用するためのソフトウェアを、別途インストールする必要はありません。
  - ガルーン 3 ケータイ
  - Office 10

システム管理者の作業

- サイボウズ製品側の設定
- サードパーティ製品側の設定
- リモートサービスマネージャー側の設定

サイボウズ製品側の設定

システム管理者は、各サイボウズ製品のシステム設定画面で、利用製品のシステム管理をします。

ステップ1

サイボウズ製品側で、ケータイの利用ユーザーを登録する

ケータイの利用ユーザーを登録します。
サードパーティ製品の場合、利用ユーザーを登録する必要はありません。

- ケータイの利用者の設定(Office 10 パッケージ版)
- 利用を許可するアプリケーションを設定する（ガルーン 4.2）
- 利用を許可するアプリケーションを設定する（ガルーン 4.0）
- ガルーン 3 マニュアルのケータイの利用ユーザーの設定

ステップ2

アクセスURLを登録する

リモートサービスマネージャー側での設定終了後に、各製品の「システム管理」画面で、ケータイ用のアクセスURLを登録します。

- ケータイのログインURLの設定(Office 10 パッケージ版)
- ケータイのログインURLを設定する（ガルーン 4.2）
- ケータイのログインURLを設定する（ガルーン 4.0）
- ガルーン 3 マニュアルのログインURLの設定

サードパーティ製品側の設定

リモートサービスの試用期間中またはライセンスが有効な場合に携帯電話からアクセスできます。
必要な設定は、お使いのサードパーティ製品のマニュアルを参照してください。

リモートサービスマネージャー側の設定

システム管理者は、リモートサービスマネージャーで、リモートサービスのシステム管理をします。

- リモートサービスマネージャーにアクセスする

ステップ1

利用製品を登録する

リモートサービスを経由して利用する製品を登録します。

- サイボウズ製品を追加する

登録済みの利用製品で、オプションであるケータイを開始する場合は、利用製品の製品情報を更新します。

- サイボウズ製品を更新する

ステップ2

サイボウズ製品を携帯電話から利用するユーザーを登録する

サードパーティ製品の場合、利用ユーザーを登録する必要はありません。

- 利用ユーザーを追加する

ユーザーの作業

ユーザーは、リモートサービスを利用する製品に必要な準備をし、携帯電話から利用製品にアクセスします。
サードパーティ製品をお使いの場合、ユーザーの作業の詳細は、各製品のマニュアルを参照してください。

ここでは、サイボウズ製品を利用する場合を例に説明します。

ステップ1

サイボウズ製品の個人設定で、ケータイの準備をする

利用製品の個人設定で、ケータイのアカウント情報やパスワードを設定します。

- ログインURLを準備する(Office 10 パッケージ版)
- ケータイでアクセスする（ガルーン 4.2）
- ケータイでアクセスする（ガルーン 4.0）
- ガルーン 3 マニュアルのユーザーが行う設定

ステップ2

製品にアクセスする

ケータイ用のアクセスURLに、携帯電話からアクセスし、ケータイにログインします。

- 携帯電話から製品にアクセスする

インストールマニュアル

インストールマニュアル 目次

リモートサービスマネージャーのインストール作業について説明します。

インストールの前に

- インストールの前に確認すること

Windows環境

- インストールする
- バージョンアップする
- アンインストールする

Linux環境

- インストールする
- バージョンアップする
- アンインストールする

その他

- 初期設定を実行する
- データをバックアップする
- データをリストアする
- サーバーを移行する
- ファイル構成
- サイボウズ Officeとリモートサービスをあわせてバージョンアップする

インストールの前に

インストールの前に確認すること

リモートサービスマネージャーをインストールする前に、次の項目を確認します。

ユーザーの権限

次のユーザーで、リモートサービスマネージャをインストールするサーバーにログインする必要があります。

- Windows環境：サーバーマシンのローカルのAdministration権限を持つユーザー
- Linux環境：Root権限を持つユーザー

サーバーや対応製品の確認

使用中のサーバーや利用する製品が動作環境と合っていることを確認します。

製品情報の動作環境

取得しているライセンス

ライセンスによって、リモートサービスマネージャーで設定できる機能が異なります。

製品情報の価格・見積・申込

最新版のインストーラーの入手

最新版のインストーラーは、下のページからダウンロードできます。

ダウンロード

試用期間中に、サードパーティ製品を利用製品として登録する場合

試用期間中は、すべてのサービスを利用できます。
ただし、試用期間中にサードパーティ製品を利用製品として登録するには、弊社Webサイトから申し込みが必要です。

Webサイト

注意

- 同一のクライアント証明書を複数のリモートサービスマネージャーで使用しないでください。リモートサービスマネージャーが正しく動作しません。
- 製品側の画面内にインターネットからデータを取り込んでいる場合は、画面を表示するたびに警告画面が表示されます。
- 製品側の画面内にイントラネット環境からデータを取り込んでいる場合は、取り込んでいるデータは使用できません。
- ウィルススキャンソフトを利用している場合は、（インストールディレクトリ）¥temp以下をウィルススキャンソフトのスキャン対象から外す必要があります。

補足

- リモートサービスマネージャーとは
  リモートサービスを使用するためにインストールするプログラムです。サイボウズがインターネット上に設置したサーバーとの間で、SSL（Secure Sockets Layer）による暗号化通信をします。

Windows環境

インストールする

Windows環境にリモートサービスマネージャーをインストールする手順を説明します。

1 インストールする環境を確認する

インストールの前に確認すること

2 **最新のインストーラーを入手する**

製品サイト：ダウンロード

3 ダウンロードした「**cbrs-rc-3.x.x.exe**」をダブルクリックする

4 **表示される画面で表示言語を選択し** OK をクリックする

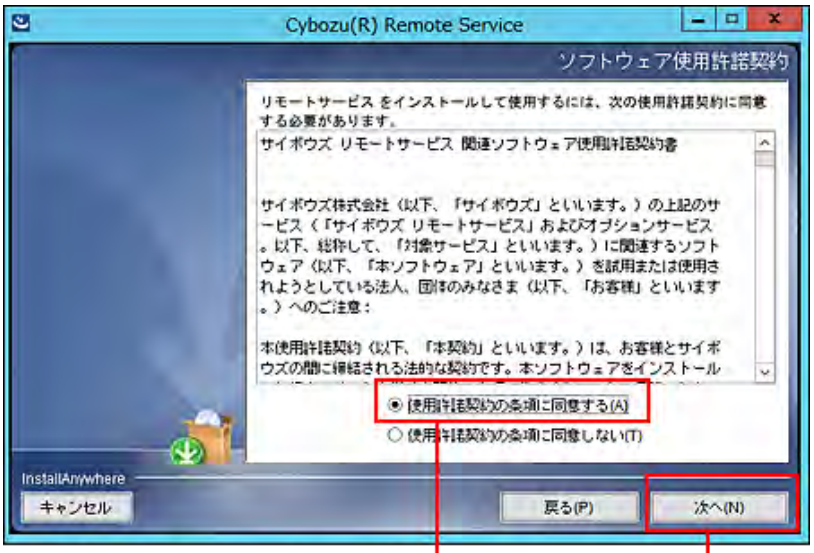
インストーラーが起動します。
リモートサービスマネージャーがすでにインストールされている場合は、新しくリモートサービスマネージャーをインストールするか、またはバージョンアップするかどうかを選択する画面が表示されます。

バージョンアップする（Windows環境）

5 次へ をクリックする

6 **使用許諾契約書を確認し、同意する場合は「使用許諾契約の条項に同意する」を選択し、** 次へ をクリックする

使用許諾契約に同意しない場合は、 キャンセル をクリックし、インストールを中止します。

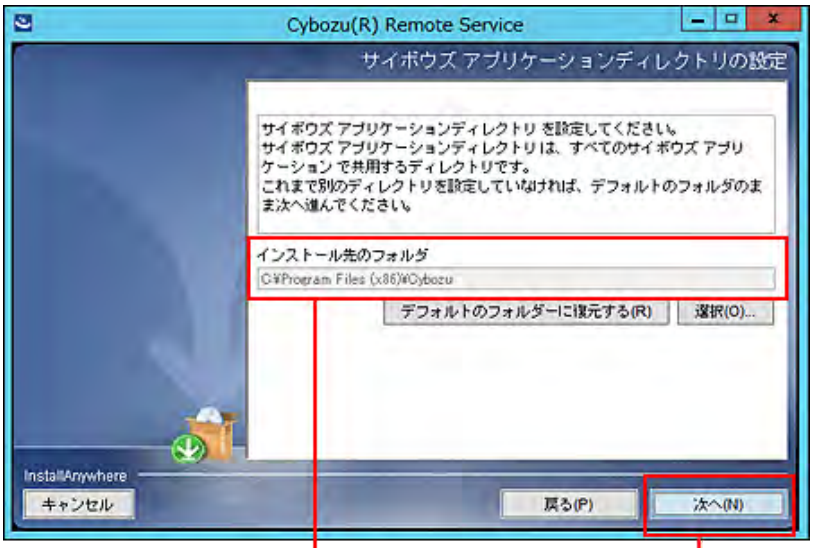


1 使用許諾契約に同意する場合は、「使用許諾契約の条項に同意する」を選択　2 クリック

7 インストール先のフォルダを確認し、 次へ をクリックする

通常は、表示されているフォルダのままで、選択し直す必要はありません。

- インストール先のフォルダを変更する場合は、 選択 をクリックし、インストールするフォルダを選択します。
- デフォルトで設定されているインストールフォルダに戻す場合は、 デフォルトのフォルダーに復元する をクリックします。



1 インストール先のフォルダを確認　2 クリック

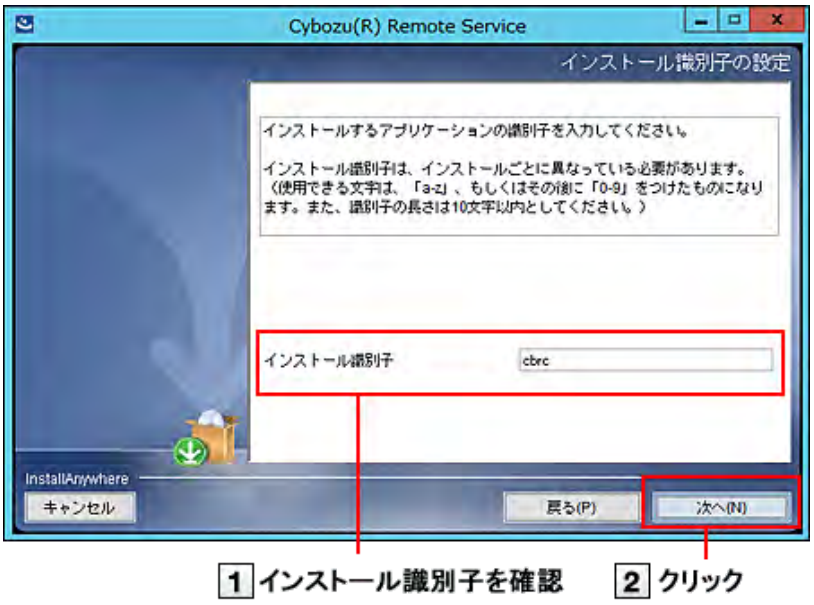
8 インストール識別子を確認し、 次へ をクリックする

インストール識別子は、通常は変更する必要はありません。ただし、複数のリモートサービスマネージャーをインストールする場合は、インストールごとに異なる識別子を設定する必要があります。

インストール識別子とは

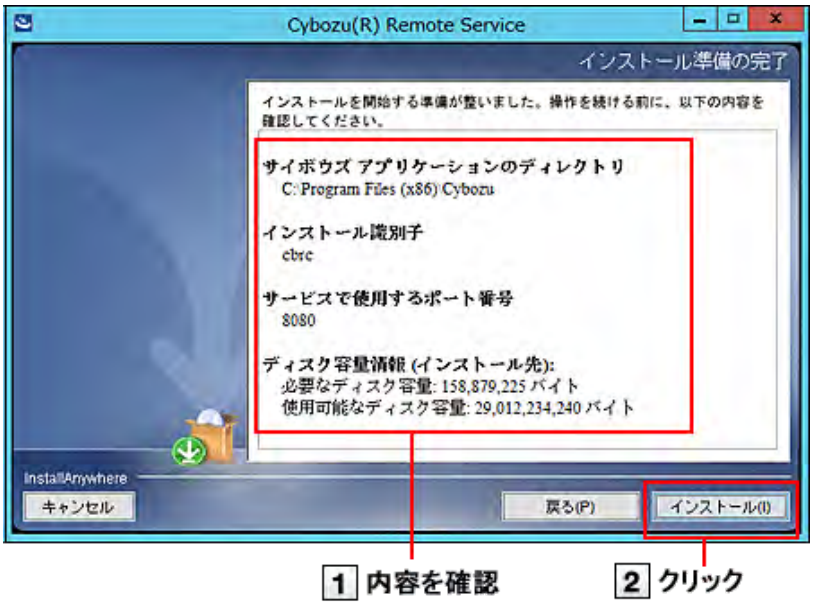
次へ をクリックすると、リモートサービスマネージャーで使用するポート番号が自動的に検出されます。

ポート番号とは

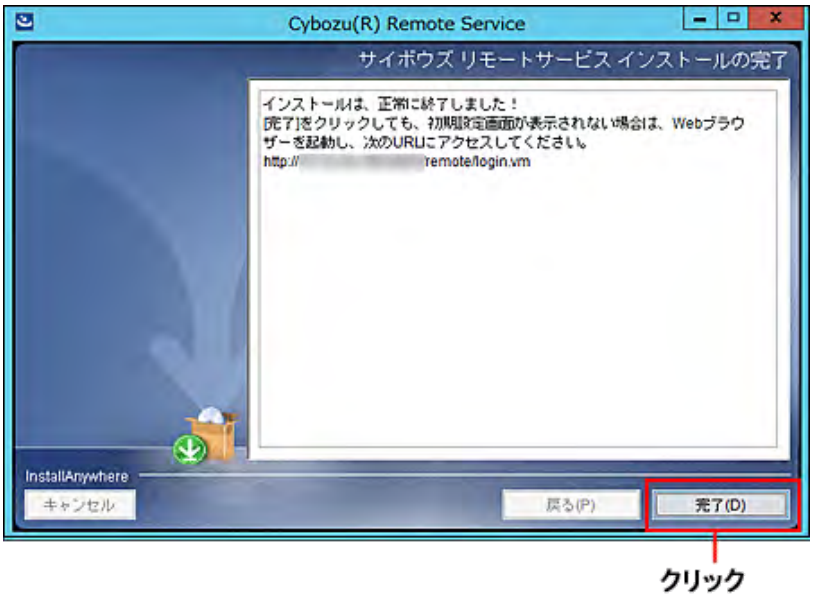


9 設定を確認し、 インストール をクリックする

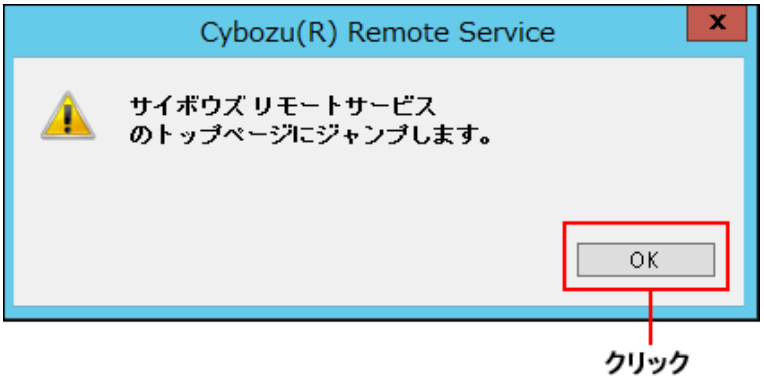
インストールが始まります。



10 **完了** をクリックする



11 OK **をクリックして、「初期設定の開始」画面を表示し、動作を確認する**

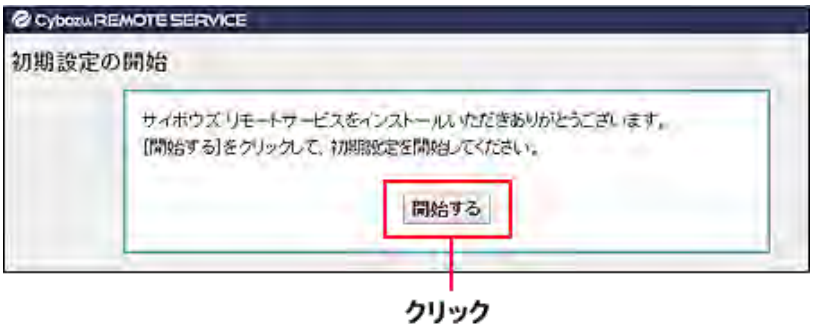


「初期設定の開始」画面が表示された場合、インストールは正常に終了しています。

「初期設定の開始」画面が表示されない場合

12 開始する をクリックして、初期設定を開始する

初期設定を実行する



注意

- **「初期設定の開始」画面が表示されない場合**
  手順11で「初期設定の開始」画面が表示されない場合は、Webブラウザーを起動し、リモートサービスマネージャーを表示してください。
  アクセスするURLは、次のとおりです。
  http://（サーバーのIPアドレスまたはFQDN）：（リモートサービスマネージャーが使用するポート番号）/remot e/login.vm

FQDNとは

例）　サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、使用するポート番号が「8080」の場合
http://192.168.1.1:8080/remote/login.vm

例）　FQDNが「bozuman.co.jp」、使用するポート番号が「8080」の場合
http://bozuman.co.jp:8080/remote/login.vm

あわせてよくあるご質問 も参照してください。

補足

- **インストール識別子とは**
  1台のサーバーに複数のリモートサービスマネージャーをインストールする場合に指定する、個々のリモートサービスマネージャーを識別するための文字列です。
  使用できる文字は「a-z」、またはその後ろに「0-9」を付けたものです。インストール識別子は、10文字以内で設定します。
  デフォルトで設定されているインストール識別子は、「cbrc」です。

- ポート番号とは
  ポート番号とは、インターネット上の通信において、IPアドレスの下に設けられるサブアドレスのことです。
  ポート番号は、リモートサービスマネージャーにアクセスするURLの一部として使用されます。
  リモートサービスマネージャーでは、1つのインストール識別子に対してポート番号を1つ使用します。

- FQDNとは
  ドメイン名、サブドメイン名、ホスト名などを省略しないで、完全な形式でドメイン名を記述することです。

Windows環境

バージョンアップする

Windows環境にインストールしているリモートサービスマネージャーをバージョンアップする手順を説明します。

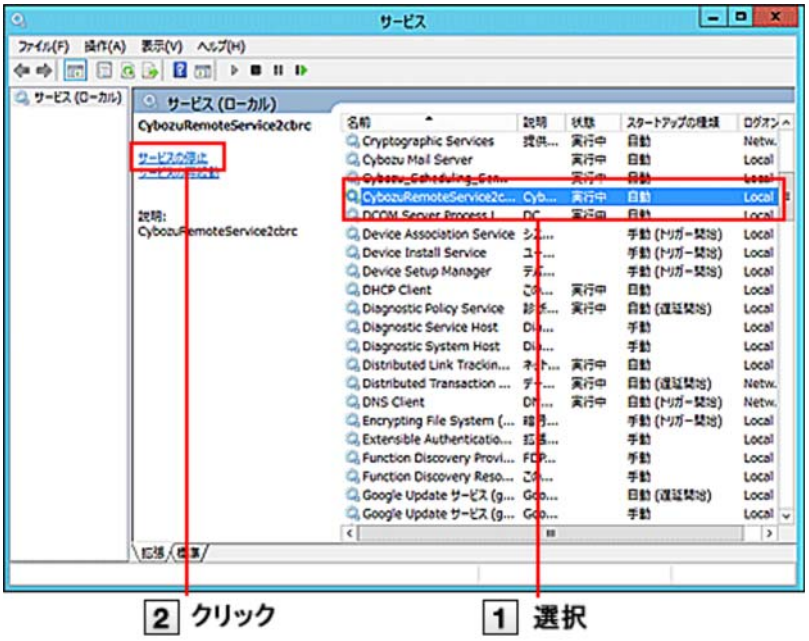
注意
- 製品へのアクセスが少ない時間帯に、リモートサービスマネージャーをバージョンアップしてください。

1 バージョンアップする環境を確認する

インストールの前に確認すること

2 リモートサービスマネージャーを停止する

Windowsのスタートメニューから、「コントロールパネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」 > 「CybozuRemoteService2（インストール識別子）」を選択し、［サービスの停止］をクリックします。



補足
- 手順10でバージョンアップが完了すると、手順2で停止したリモートサービスマネージャーが自動的に起動します。

3 「サービス」画面を閉じる

注意
- 手順2でリモートサービスマネージャーを停止したあとは、必ず「サービス」画面を閉じてください。
  「サービス」画面を閉じずにバージョンアップを続けると、バージョンアップに失敗することがあります。

4 リモートサービスマネージャーのデータをコピーする

インストールマシンの故障やデータの誤削除などに備え、データのバックアップをとります。
バックアップの対象と方法については、次のページを参照してください。

データをバックアップする

5 設定値のメモを取る

リモートサービスマネージャーをバージョンアップすると、次の設定が初期設定に戻ります。

- 使用するメモリーの量
- 作成するスレッドの数

上記の設定値を変更している場合は、バージョンアップ前の設定値をメモしておきます。

使用するメモリーの量

リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量の確認方法は、次の項目を参照してください。

リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を確認、または編集する

作成するスレッドの数

次のファイルの「DispatcherWorkerThreadCount」の設定値のメモを取っておきます。
（インストールディレクトリ）¥conf¥RelayClient.properties
例：C:¥Program Files (x86)¥Cybozu¥cbrc¥RelayClient.properties
設定値が次のようになっている場合、スレッドの数は15です。
DispatcherWorkerThreadCount = 15

6 最新のインストーラーを入手する

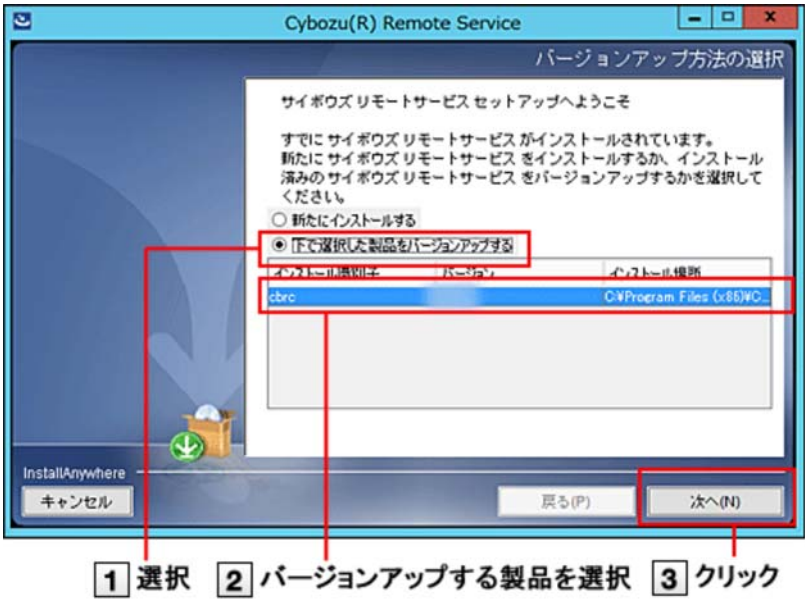
製品サイト：ダウンロード

7 ダウンロードした「cbrs-rc-3.x.x.exe」をダブルクリックする

インストーラーが起動します。

8 ドロップダウンリストから表示言語を選択し、OKをクリックする

9 「下で選択した製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、 次へ をクリックする



10 バージョンアップする をクリックする

バージョンアップしない場合は、 キャンセル をクリックし、バージョンアップを中止します。

11 完了 をクリックする

バージョンアップ前と同じURLを指定し、リモートサービスマネージャーの「ログイン」画面を表示し、動作を確認します。
「ログイン」画面が表示された場合、バージョンアップは正常に終了しています。
「ログイン」画面の下に表示されるバージョン番号が更新されていることを確認します。

12 設定値をバージョンアップ前の値に戻す

次の設定値を、手順5でメモを取っておいたバージョンアップ前の値に戻します。

- 使用するメモリーの量
- 作成するスレッドの数

使用するメモリーの量

リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を編集する方法は、次の項目を参照してください。

リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を確認、または編集する

作成するスレッドの数

テキストエディターで次のファイルを開きます。
（インストールディレクトリ）¥conf¥RelayClient.properties
例：C:¥Program Files (x86)¥Cybozu¥cbrc¥RelayClient.properties j
「DispatcherWorkerThreadCount」の値を、バージョンアップ前の値に戻します。

リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を確認、または編集する

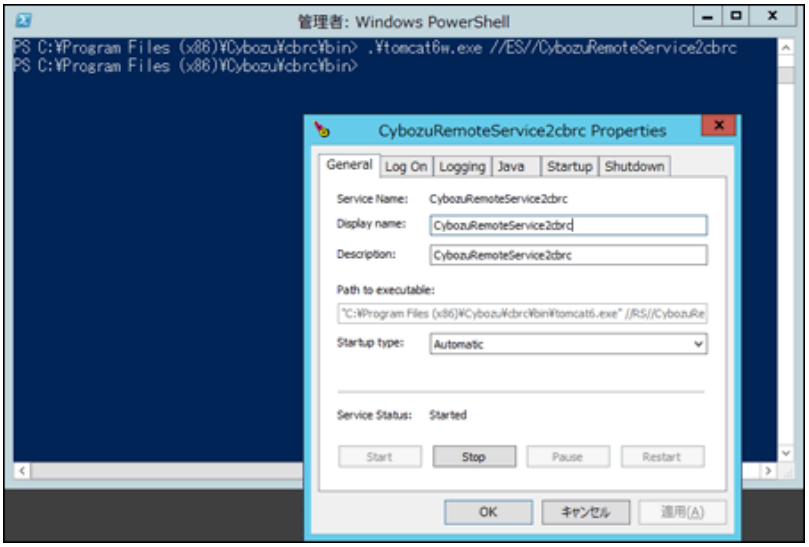
Windows環境でリモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を確認したり、編集したりする手順を説明します。

1 Windows Powershellを開き、次のディレクトリに移動する

（インストールディレクトリ）¥bin¥
コマンドの例：
cd “C:¥Program Files (x86)¥Cybozu¥cbrc¥bin¥”

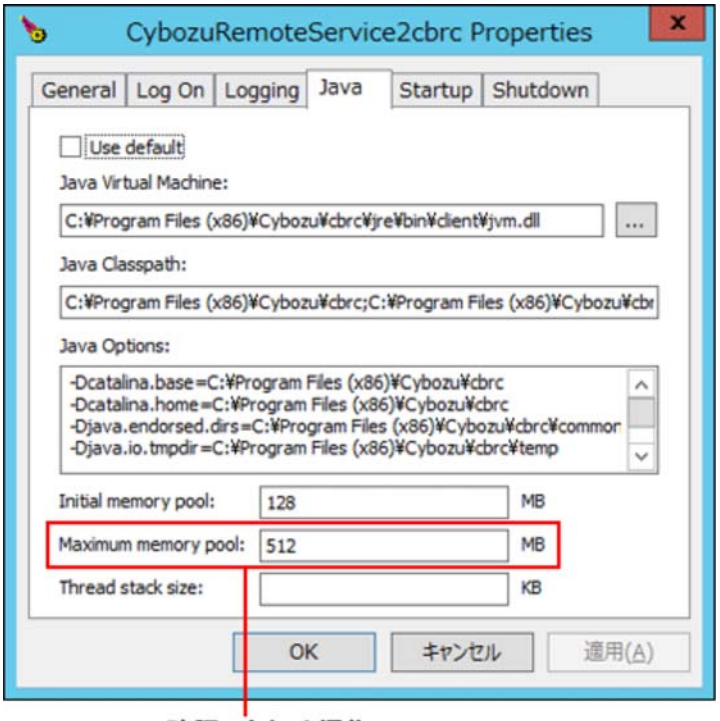
2 次のコマンドを実行する

.¥tomcat6w.exe //ES//CybozuRemoteService2（インストール識別子）
コマンドの例：
.¥tomcat6w.exe //ES//CybozuRemoteService2cbrc
Webサーバー（tomcat）の設定が開きます。



3 「Java」タブを開き、「Maximum memory pool」の値を確認、または編集する

リモートサービスマネージャーは、最大で「Maximum memory pool」に指定された量のメモリーを使用します。



確認、または編集

4 [OK]をクリックする

アンインストールする

Windows環境にインストールしているリモートサービスマネージャーをアンインストールする手順を説明します。

注意
- リモートサービスマネージャーのアンインストールには、Administrator権限が必要です。

補足
- インストールディレクトリ¥（インストール識別子）にある「uninstall.exe」をダブルクリックしても、アンインストーラーを起動できます。

ファイル構成

1. **Windowsのスタートメニューから、「コントロールパネル」 > 「プログラムの追加と削除」**の順に選択する

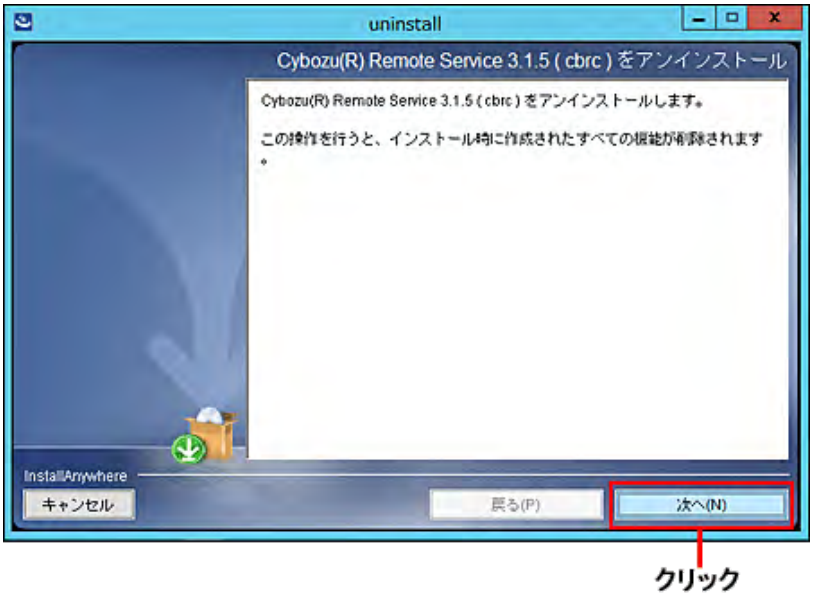
   Windows 2000 ProfessionalとWindows 2000 Serverの場合は、「アプリケーションの追加と削除」を選択します。

2. **「現在インストールされているプログラム：」から「Cybozu（R） Remot e Service 3.x.x（インストール識別子）」を選択する**

   インストール識別子とは

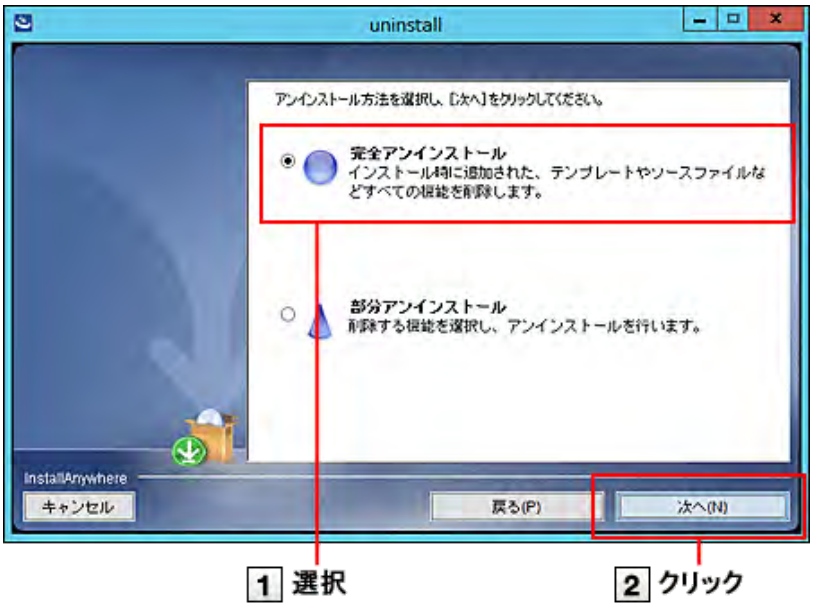
3. **変更と削除** をクリックする

4. 次へ をクリックする



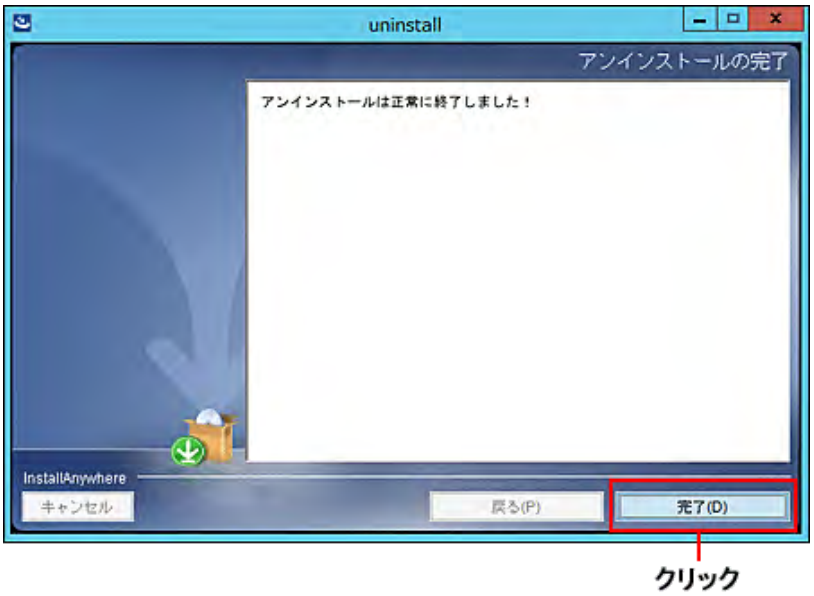
5. 「完全アンインストール」を選択し、 次へ をクリックする

   設定ファイルを残す場合は、「部分アンインストール」を選択し、次に表示される画面で「アプリ」を選択します。



6 **完了** をクリックする

これで、アンインストールは終了です。



Linux環境

インストールする

Linux環境にリモートサービスマネージャーをインストールする手順を説明します。

補足
- インストールにはLinuxコマンドを使用します。Linuxシェル環境での作業経験がない場合は、Linuxサーバーのシステム管理者に協力を依頼してください。

1 インストール環境を確認する

インストールの前に確認すること

2 **最新のインストーラーを入手する**

製品サイト：ダウンロード

3 **ダウンロードしたインストーラー「cbrs-rc-3.x.x.bin」を適当なディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動する**

4 インストーラーをshコマンドで起動する

```
[root@localhost root]# sh cbrs-rc-3.x.x.bin
```

5 **画面を日本語で表示する場合は「2」、英語で表示する場合は「1」を入力してから、Enterキーを押す**

- リモートサービスマネージャーがすでにインストールされている場合は、複数の製品をインストールするか、またはバージョンアップするかどうかを選択する画面が表示されます。

  バージョンアップする（Linix環境）

- 英語表示の画面では、「->2- 日本語」の部分が文字化けします。インストールする環境により、日本語が表示されない場合があります。

```
================================
Choose Locale...
----------------
1- English
->2- 日本語
CHOOSE LOCALE BY NUMBER:
```

6 Enterキーを押す

```
================================
サイボウズリモートサービス
----------------
サイボウズリモートサービス セットアップへようこそ
このプログラムは、サイボウズリモートサービス をコンピュータにインストールします。

続行するには <ENTER> キーを押します。:
```

7 **画面が日本語で表示されている場合は、Enterキーを押し、使用許諾契約を確認する**

英語で表示されている場合は、インストールディレクトリにある「License/txt」で使用許諾契約を確認できます。

ファイル構成

8 **使用許諾契約に同意する場合は、「Y」を入力して、Enterキーを押す**

使用許諾契約書に同意しない場合は、「N」を入力してからEnterキーを押して、インストールを中止します。

```
この使用許諾契約の条項に同意しますか。（Y/N）:
```

9 インストール先のディレクトリを確認し、Enterキーを押す

- 通常は、インストール先のディレクトリを変更する必要はありません。何も入力せずにEnterキーを押します。
- インストール先のディレクトリを変更する場合は、絶対パスでインストール先を指定します。

```
サイボウズ アプリケーションディレクトリの設定
------------------------
サイボウズ アプリケーションディレクトリ を設定してください。
サイボウズ アプリケーションディレクトリ は、すべてのサイボウズ アプリケーション で共用するディレクトリです。
これまで別のディレクトリを設定していなければ、デフォルトのディレクトリのまま次へ進んでください。

[/usr/local/cybozu/] : (デフォルト: /usr/local/cybozu) :
```

10 インストール識別子を確認し、Enterキーを押す

通常はインストール識別子を変更する必要はありません。何も入力せずにEnterキーを押します。ただし、複数のリモートサービスマネージャーをインストールする場合は、インストールごとに異なる識別子を設定する必要があります。

インストール識別子とは

```
インストール識別子の設定
------------
インストールするアプリケーションの識別子を入力してください。
インストール識別子は、インストールごとに異なっている必要があります。
（使用できる文字は、「a- z 」、もしくはその後に「0-9」をつけたものになります。また、識別子の長さは10文字以内としてください。）

[cbrc] : (デフォルト: cbrc):
```

11 インストールの設定を確認し、Enterキーを押す

インストールが始まります。

```
インストール準備の完了
------------
インストールを開始する準備が整いました。

サイボウズアプリケーションのディレクトリ：
/usr/local/cybozu

インストール識別子：
cbrc

サービスで使用するポート番号：
8080

上記の設定でインストールを開始してもよろしいですか？

インストールするには <ENTER> キーを押してください。：
```

12 Enterキーを押す

完了メッセージが表示されたら、Enterキーを押してインストーラーを終了します。
これで、インストール作業は終了です。

```
TITLE_INSTALLATION_COMPLETE
------------

インストールは、正常に終了しました！
[完了]をクリックしても、初期設定画面が表示されない場合は、Webブラウザーを起動し、次のURLにアクセスしてください。
http://192.168.1.1:8080/remote/login.vm
```

<ENTER> キーを押すと、インストーラが終了します。:

13 動作を確認する

Webブラウザーを起動し、リモートサービスマネージャーにアクセスします。「初期設定の開始」画面が表示されれば、インストールは正常に終了しています。アクセスするURLは、次のとおりです。

http://（サーバーのIPアドレスまたはFQDN）:（リモートサービスマネージャーが使用するポート番号）/remot e/login.vm

FQDNとは

例）　サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、使用するポート番号が「8080」の場合
http://192.168.1.1:8080/remote/login.vm

例）　FQDNが「bozuman.co.jp」、使用するポート番号が「8080」の場合
http://bozuman.co.jp:8080/remote/login.vm

14 開始する をクリックして、初期設定を行う

初期設定を実行する

Linux環境

バージョンアップする

Linux環境にインストールしているリモートサービスマネージャーをバージョンアップする手順を説明します。

注意
- 製品へのアクセスが少ない時間帯に、リモートサービスマネージャーをバージョンアップしてください。
- リモートサービスマネージャーのバージョンアップには、root権限が必要です。

1 インストールする環境を確認する

インストールの前に確認すること

2 リモートサービスマネージャーを停止する

```
/etc/init.d/cbrs_（インストール識別子） stop
```

3 リモートサービスマネージャーのデータをコピーする

インストールマシンの故障やデータの誤削除などに備え、データのバックアップをとります。
バックアップの対象と方法については、次のページを参照してください。

データをバックアップする

4 設定値のメモを取る

リモートサービスマネージャーをバージョンアップすると、次の設定が初期設定に戻ります。

- 使用するメモリーの量
- 作成するスレッドの数

上記の設定値を変更している場合は、バージョンアップ前の設定値をメモしておきます。

使用するメモリーの量

次のファイルの「CB_APP_OPTS」の設定値のメモを取っておきます。
（インストールディレクトリ）/bin/boot.sh
例：/usr/local/cybozu/bin/boot.sh
設定値が次のようになっている場合、XmsとXmxの値「256」がメモリーの量です。
CB_APP_OPTS="-Xms256m -Xmx256m -Dlog4j.configuration=conf/log/log4j.properties"

作成するスレッドの数

次のファイルの「DispatcherWorkerThreadCount」の設定値のメモを取っておきます。
（インストールディレクトリ）/conf/RelayClient.properties
例：/usr/local/cybozu/conf/RelayClient.properties
設定値が次のようになっている場合、スレッドの数は15です。
DispatcherWorkerThreadCount = 15

5 最新のインストーラーを入手する

製品サイト：ダウンロード

6 ダウンロードしたインストーラー「cbrs-rc-3.x.x.bin」を適当なディレクトリーに保存し、そのディレクトリーに移動する

7 インストーラーをshコマンドで起動する

```
[root@localhost root]# sh cbrs-rc-3.x.x.bin
```

8 画面を日本語で表示する場合は「2」、英語で表示する場合は「1」を入力してから、Enterキーを押す

英語表示の画面では、「->2- 日本語」の部分が文字化けします。バージョンアップする環境により、日本語が表示されない場合があります。

```
================================
Choose Locale...
----------------
1- English
->2- 日本語
CHOOSE LOCALE BY NUMBER:
```

9 「2」を入力し、Enterキーを押す

```
すでに サイボウズ リモートサービス がインストールされています。
新たに サイボウズ リモートサービス をインストールするか、インストール済みのサイボウズ リモートサービスをバージョンアップするかを選択してください。

1- 新たにインストールする
->2-バージョンアップする

選択する項目の番号を入力するか、デフォルトを使用する場合は <ENTER> キーを押してください。:
```

10 バージョンアップする製品のインストール識別子を入力し、Enterキーを押す

インストール識別子とは

```
インストール識別子の設定
------------
すでにインストールされているアプリケーションの識別子は、次のとおりです。
選択した識別子のアプリケーションをバージョンアップします。
cbrc

バージョンアップするアプリケーションの識別子を入力して下さい。

[cbrc]: (デフォルト: cbrc):
```

補足

- リモートサービスマネージャーをバージョン 2.2.0以前から最新版にバージョンアップすると、手順9の後に使用許諾契約が表示されます。
  - 使用許諾契約に同意する場合： 「Y」を入力し、Enterキーを押します。
  - 使用許諾契約に同意しない場合： 「N」を入力し、Enterキーを押します。バージョンアップを中止します。

11 「1」を入力し、Enterキーを押す

バージョンアップが始まります。

```
バージョンアップを開始します。
よろしいですか?
->1- バージョンアップする
2- キャンセル

選択する項目の番号を入力するか、デフォルトを使用する場合は<Enter>キーを押してください。 :
```

12 Enterキーを押す

完了メッセージが表示されたら、Enterキーを押してインストーラーを終了します。
これで、バージョンアップは終了です。

```
サイボウズ リモートサービス バージョンアップの完了
--------------------------
```

バージョンアップは、正常に終了しました！

バージョンアップ前と同じURLを指定し、「システム管理」画面にアクセスしてください。

<ENTER> キーを押すと、インストーラが終了します。：

13 設定値をバージョンアップ前の値に戻す

次の設定値を、手順4でメモを取っておいたバージョンアップ前の値に戻します。

- 使用するメモリーの量
- 作成するスレッドの数

使用するメモリーの量

テキストエディターで次のファイルを開きます。
（インストールディレクトリ）/bin/boot.sh
例：/usr/local/cybozu/bin/boot.sh
「CB_APP_OPTS」の設定値のうち、XmsとXmxの値をバージョンアップ前の値に戻します。

作成するスレッドの数

テキストエディターで次のファイルを開きます。
（インストールディレクトリ）/conf/RelayClient.properties
例：/usr/local/cybozu/conf/RelayClient.properties
「DispatcherWorkerThreadCount」の値を、バージョンアップ前の値に戻します。

14 動作を確認する

Webブラウザーを起動し、リモートサービスマネージャーにアクセスします。
「ログイン」画面の下に表示されるバージョン番号が更新されていることを確認します。
アクセスするURLは、次のとおりです。
http://（サーバーのIPアドレスまたはFQDN）：（リモートサービスマネージャーが使用するポート番号）/remote/login.vm

FQDNとは

例）　サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、使用するポート番号が「8080」の場合
http://192.168.1.1:8080/remote/login.vm
例）　FQDNが「bozuman.co.jp」、使用するポート番号が「8080」の場合
http://bozuman.co.jp:8080/remote/login.vm

アンインストールする

Linux環境にインストールしているリモートサービスマネージャーをアンインストールする手順を説明します。

注意 ● リモートサービスマネージャーのアンインストールには、root権限が必要です。

1 スーパーユーザーでログインする

suコマンドを使い、root権限でログインします。

2 リモートサービスマネージャーのインストールディレクトリに移動する

ファイル構成

3 アンインストーラーをshコマンドで起動する

```
[root@localhost root]# sh uninstall
```

4 Enterキーを押す

```
==============================
リモートサービス をアンインストール
-----------------------------

リモートサービス をアンインストールします。
この操作を行うと、インストール時に作成されたすべての機能が削除されます。

続行するには <ENTER> キーを押します。:
```

5 「1」を入力し、Enterキーを押す

設定ファイルを残す場合は、「2」を入力し、次の手順で「アプリ」を選択します。
これで、アンインストールは終了です。

```
==============================
TITLE_UNINSTALLATION_OPTION
-------------
アンインストールの方法を番号で入力するか、デフォルトのままにする場合は[Enter]キーを押します。

->1- 完全アンインストール :
インストール時に追加された、テンプレートやソースファイルなどすべての機能を削除します。

2- 部分アンインストール :
削除する機能を選択し、アンインストールを行います。

［1/2］:
```

その他

初期設定を実行する

インストール作業が完了したら、リモートサービスマネージャーの初期設定を開始します。

- 初期設定の注意
- 初期設定を実行する

初期設定の注意

- 初期設定の手順は、クライアント証明書を入手しているかどうかで異なります。
  試用版でお試しになる場合は、手順4で「試用版のクライアント証明書を登録する」を選択します。
  サービス証明書がお手元にある場合は、記載されたリモートIDのクライアント証明書を、リモートID新規お申し込みから入手し、手順4では「入手済みのクライアント証明書を登録する」を選択します。
- 同一のクライアント証明書を複数のリモートサービスマネージャーで使用しないでください。同一のクライアント証明書を複数のリモートサービスマネージャーで使用すると、リモートサービスマネージャーは正しく動作しません。
- クライアント証明書の登録には時間がかかる場合があります。登録中は次の画面が表示されます。登録中は他の画面に移動しないように注意してください。

- サーバーOSのWebブラウザーにInternet Explorerを使用している場合は、初期設定時にInternet Explorerからクライアント証明書の登録ボタンがクリックできないことがあります。
  この場合、クライアントパソコンのWebブラウザーから初期設定をしてください。

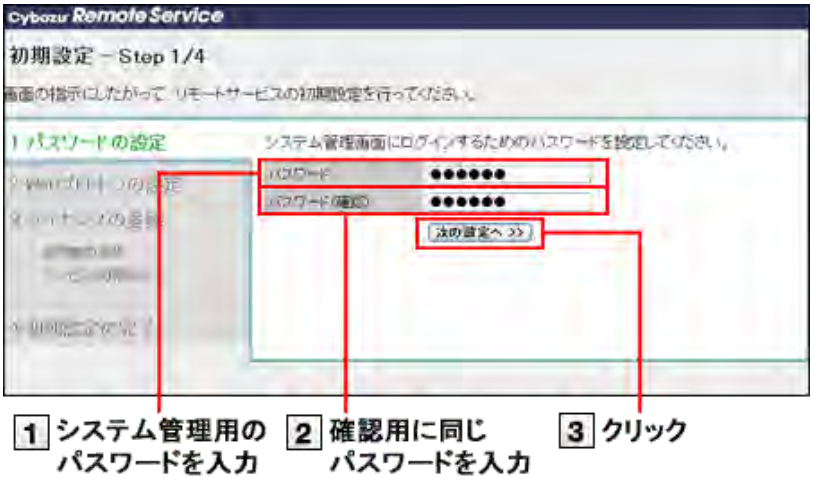
初期設定を実行する

初期設定ウィザードにしたがって、システム管理用のパスワードやWebプロキシを設定し、試用するサービスを選択してからクライアント証明書を登録します。
リモートサービスマネージャーが中継サーバーに接続するには、初期設定でクライアント証明書の登録が必要です。

1 **「初期設定の開始」画面で、** 開始する をクリックする

2 システム管理用のパスワードを2回入力し、 次の設定へ >> をクリックする

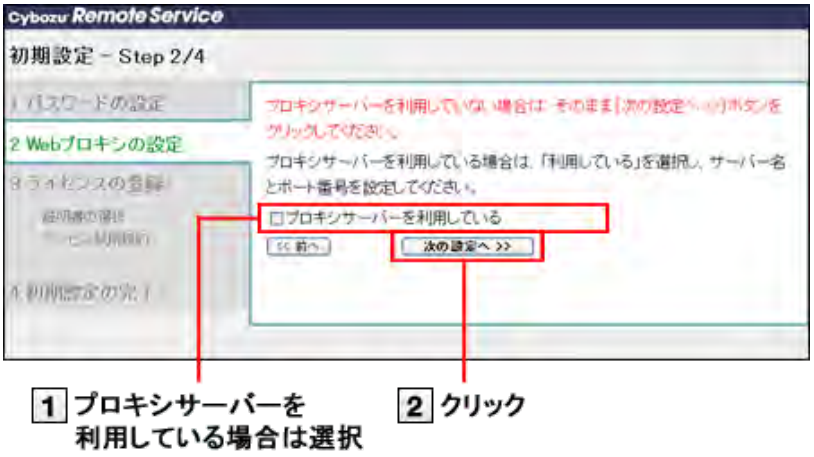
リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面にログインするためのパスワードを設定します。
確認用とあわせて、2回パスワードを入力します。



3 プロキシサーバーを利用しているかどうかを選択し、 次の設定へ >> をクリックする

プロキシサーバーを使用している場合は、「プロキシサーバーを利用している」にチェックを入れ、サーバー名とポート番号を入力し、 次の設定へ >> をクリックします。

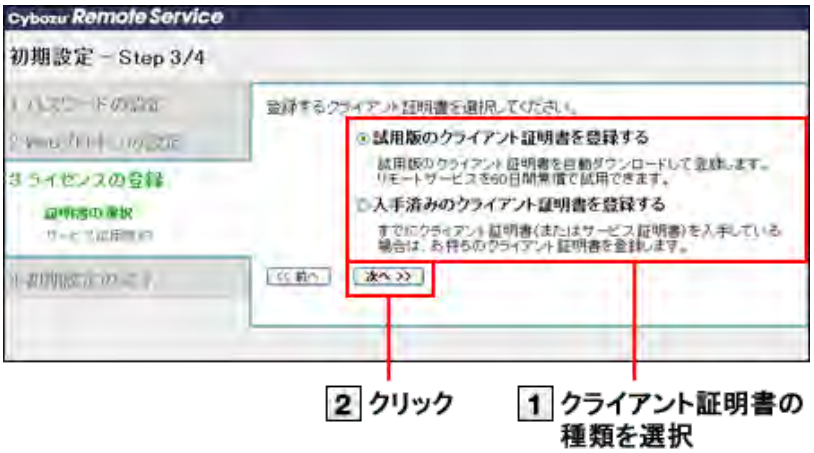
プロキシサーバーとは



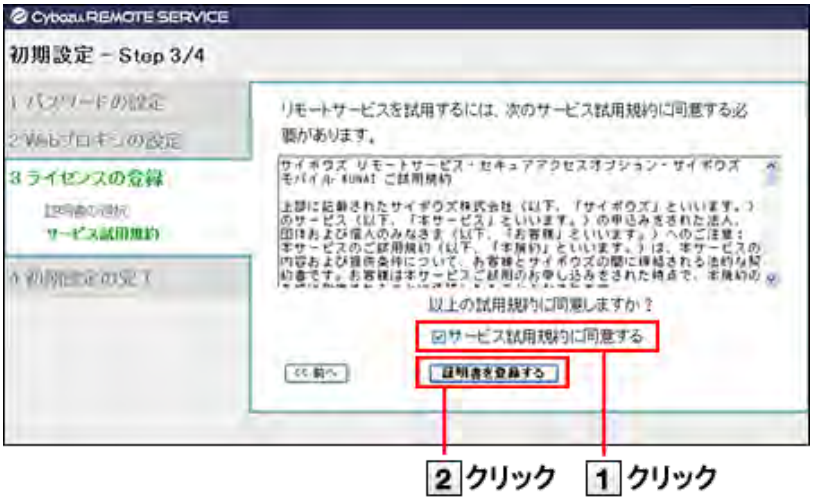
4 クライアント証明書の種類を選択し、 次へ >> をクリックする

サービス証明書をすでに入手している場合は、「入手済みのクライアント証明書を登録する」を選択します。
リモートサービスを試用する場合は、「試用版のクライアント証明書を登録する」を選択します。

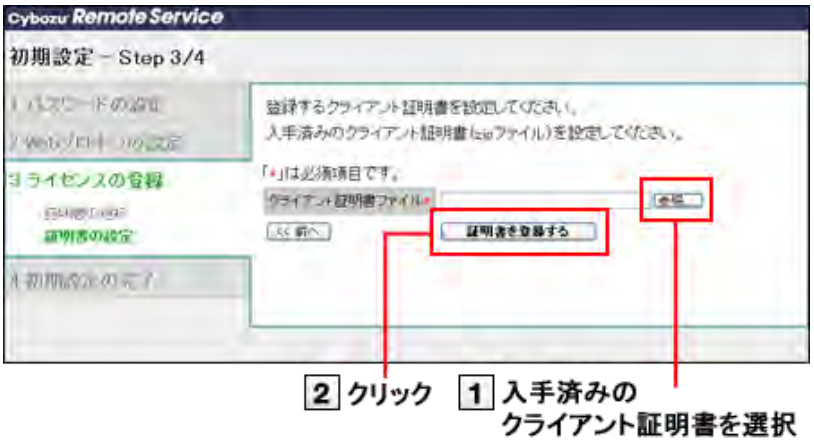
クライアント証明書とは



5 **試用許諾を確認し、** 証明書を登録する をクリックする



入手済みのクライアント証明書を登録する場合は、 参照 をクリックし、入手済みのクライアント証明書(zipファイル)を選択します。



6 **システム管理画面へ** をクリックする

これで、初期設定は終了です。

続いて、「システム管理」画面にアクセスし、利用する製品やユーザーを設定します。

- パソコンからアクセスする場合
- 携帯電話からアクセスする場合

その他

データをバックアップする

誤って必要なデータを削除してしまったときや、サーバーマシンの故障、バージョンアップ時などに備え、リモートサービスマネージャーのデータをバックアップすることを推奨します。
データの破損や、誤操作によるデータの削除が発生しても、バックアップデータを使って、事故が起こる前の状態に戻すことができます。
ここでは、手動で行うバックアップの方法を説明します。

注意
- サーバーマシンのハードディスクが故障すると、サーバーマシン自体が使えなくなります。この場合、リモートサービスマネージャーのデータをバックアップしていても、すぐにリモートサービスを使える状態に復旧できません。
  スムーズにシステム全体を復旧するためにも、システム全体のバックアップが取れる専用ソフトのインストールや各種ドライバの設定、予備のサーバーマシンの準備もご検討ください。

- バックアップするディレクトリーとファイル
- バックアップ作業の手順

バックアップするディレクトリーとファイル

次のディレクトリーと配下のファイルをバックアップします。

- （インストールディレクトリー）¥conf以下の次の3ファイル
  - クライアント証明書（リモートID.zip）
  - RelayClient.properties
  - user.pfx

  ※リモートID.zip がない場合は、user.pfx と RelayClient.properties のみバックアップします。
- （インストールディレクトリー）¥data以下のすべてのデータ

Windows環境
インストールディレクトリーが「C:¥Program Files¥Cybozu¥cbrc」の場合の例です。

- C:¥Program Files¥Cybozu¥cbrc¥conf¥R*******.zip（R******* はリモートIDです。）
- C:¥Program Files¥Cybozu¥cbrc¥conf¥RelayClient.properties
- C:¥Program Files¥Cybozu¥cbrc¥conf¥user.pfx
- C:¥Program Files¥Cybozu¥cbrc¥data

Linux環境
インストールディレクトリーが「/usr/local/cybozu/cbrc」の場合の例です。

- /usr/local/cybozu/cbrc/conf/R*******.zip（R******* はリモートIDです。）
- /usr/local/cybozu/cbrc/conf/RelayClient.properties
- /usr/local/cybozu/cbrc/conf/user.pfx
- /usr/local/cybozu/cbrc/data

ファイル構成の詳細は、次のページを参照してください。

ファイル構成

補足 ● 2.0.4以前のバージョンの場合は、次のデータをコピーします。
（インストールディレクトリー）¥conf以下のすべてのファイルとディレクトリー

バックアップ作業の手順

バックアップするディレクトリーとファイルを、外部の媒体(磁気テープ、CD-R、MO、別のハードディスクなど)に手動でコピーしてバックアップします。

注意 ● データのバックアップ作業は、ユーザーがリモートサービスを利用しない時間帯に行ってください。

1 リモートサービスマネージャーを停止する

リモートサービスマネージャーを停止する

2 必要なデータをコピーし、外部媒体などにバックアップする

バックアップするディレクトリーとファイル

3 リモートサービスマネージャーを再起動する

リモートサービスマネージャーを再起動する

その他

データをリストアする

バックアップデータ（クライアント証明書「R*******.zip」、「user.pfx」、「data」）を利用し、データの復旧を行います。
バックアップデータとは、バックアップしたディレクトリーとファイルを指します。

バックアップするディレクトリーとファイル

注意

- データをリストアしても、バックアップ以降に変更したデータは復旧されません。このため、バックアップ以降に追加した製品が解除されたり、削除したデータが一覧に表示されたりなど、データに不整合が生じる可能性があります。
- バックアップデータをリストアする際は、上書きコピーではなく、既存のデータ（クライアント証明書「R*******.zip」、「user.pfx」、「data」）を削除またはリネームし、バックアップデータと置き換えてください。上書きコピーした場合、データファイルの不整合が発生する場合があります。
- バックアップデータをリストアする際は、バックアップ元と、リストア先のリモートサービスマネージャーのバージョンが同じである必要があります。

1 リストア先のリモートサービスマネージャーを停止する

利用中のサーバーマシンのリモートサービスから、別のサーバーマシンにインストールしたリモートサービスマネージャーにデータをリストアする場合は、バックアップ元のリモートサービスマネージャーも停止します。

リモートサービスマネージャーを停止する

2 リストア先の、次のディレクトリーをリネーム、または削除する

Windows環境の例：
（インストールディレクトリ）¥conf¥R*******.zip →（インストールディレクトリ）¥conf¥R*******_**bak**.zip
（インストールディレクトリ）¥conf¥user.pfx →（インストールディレクトリ）¥conf¥user_**bak**.pfx
（インストールディレクトリ）¥data → （インストールディレクトリ）¥data_**bak**
※「RelayClient.properties」は、ここでは削除やリネームをしないでおきます。

3 バックアップファイルをリストア先に配置する

インストールディレクトリ配下に配置します。
Windows環境の例：
バックアップファイル「¥conf¥R*******.zip」→（インストールディレクトリ）¥conf¥R*******.zip として配置
バックアップファイル「¥conf¥user.pfx」→（インストールディレクトリ）¥conf¥user.pfx として配置
バックアップファイル「¥data」→（インストールディレクトリ）¥data として配置

4 インストールディレクトリのRelayClient.properties と、バックアップのRelayClient.properties をテキストエディターで開きます。

Windows環境の例：
（インストールディレクトリ）¥conf¥RelayClient.properties

5 RelayClient.properties に記載されている項目の値を確認します。

次の項目に異なる値がある場合は、バックアップのRelayClient.propertiesの値を、インストールディレクトリのRelayClient.propertiesの値にコピーします。

- SecuritySyncIntervalMinutes
- ServerPort
- ServerAddress
- DispatcherWorkerThreadCount
- TimeOutSec

- SsoCookie

例：
赤字の値を確認します。

```
#Tue Jan 28 13:52:45 JST 2014
SecuritySyncIntervalMinutes= 30
Version=3.1.x
ServerPort= 443
ClientID=139088*******
ServerAddress= remot e2rc.cybozu.co  .jp
DispatcherWorkerThreadCount= 15
TimeOutSec= 120
SsoCookie= CB_CLOGIN,CB_PLOGIN,CB_OPENAUTH
RegistServiceName=cbrc
```

6 Linux環境の場合は、ディレクトリーとファイルのアクセス権を設定する

- dataディレクトリ：755
- リモートID.zip：644
- user.pfx：644
- data以下のすべてのデータ：664、または644

7 リストア先のリモートサービスマネージャーを再起動する

バックアップ元のリモートサービスマネージャーも、必要に応じて再起動します。

リモートサービスマネージャーを再起動する

8 Webブラウザーを起動してリモートサービスマネージャーにアクセスし、動作確認をする

次の項目を確認します。

- リストアしたデータを、正常に閲覧または表示できる。
- 正常にデータを登録または変更できる。

その他

サーバーを移行する

使用中のリモートサービスマネージャーを別のサーバーに移行する手順を説明します。

注意

- 移行元のリモートサービスマネージャーのバージョンが最新版でない場合は、最新版へバージョンアップしてから、サーバーを移行してください。移行元と移行先のリモートサービスマネージャーのバージョンは一致している必要があります。

  バージョンアップする（Windows環境）
  バージョンアップする（Linux環境）

- 利用製品のサーバーとリモートサービスマネージャーのサーバーを同時に移行する場合は、利用製品のサーバーを移行した後に、リモートサービスマネージャーのサーバーを移行してください。
  利用製品のサーバーを移行したら、リモートサービスマネージャーで製品情報の更新が必要です。

  利用製品を更新する（パソコンや携帯電話からのアクセス）

ステップ1 利用中のリモートサービスマネージャーを停止する

リモートサービスマネージャーを停止する

ステップ2 リモートサービスマネージャーのデータをバックアップする

データをバックアップする

ステップ3 移行先のサーバーに、リモートサービスマネージャーをインストールする

「初期設定の開始」画面が表示された場合は、初期設定をせず、Webブラウザーを閉じます。

インストールする（Windows環境）
インストールする（Linux環境）

ステップ4 移行先のサーバーのリモートサービスマネージャーを停止する

手順は、ステップ1と同様です。

リモートサービスマネージャーを停止する

ステップ5 移行先のサーバーから、リモートサービスマネージャーのデータを削除する

削除するデータは、次のとおりです。

- （インストールディレクトリ）¥data以下のすべてのデータ

ステップ6 データを移行する

ステップ 2 でバックアップしたデータを移行先のサーバーにコピーします。
※ 移行元のリモートサービスマネージャーで、RelayClient.propertiesの内容を変更している場合は、移行先のRelayClient.propertiesの内容も変更します

データをリストアする

ステップ7 移行先のサーバーでリモートサービスマネージャーを開始する

リモートサービスマネージャーを再起動する

ステップ8 動作確認する

Webブラウザーを起動して、移行先のサーバーでリモートサービスマネージャーの「システム管理」画面にアクセスし、次の項目を確認します。

- 利用製品や利用ユーザーの登録内容が、移行元から引き継がれている
- ライセンスの内容が、移行元から引き継がれている

リモートサービスマネージャーにアクセスする
「利用ユーザーの設定」画面について

ライセンスを管理する

ステップ9 **移行元のサーバーから、リモートサービスマネージャーをアンインストールする**

アンインストールする（Windows環境）
アンインストールする（Linux環境）

その他

ファイル構成

リモートサービスマネージャーをサーバーにインストールすると、インストール先のディレクトリの配下に次のファイルが保存されます。

🗀 ･･･リモートサービスマネージャーで使用するディレクトリ
🗎 ･･･リモートサービスマネージャーで使用するファイル

🗀 <インストール識別子>	
├🗎 LICENSE_EN.txt	使用許諾契約書（英）
├🗎 LICENSE_JA.txt	使用許諾契約書（日）
├🗎 LICENSE_ZH_CN.txt	使用許諾契約書（中）
├🗎 TRIAL_EN.txt	試用規約（英）
├🗎 TRIAL_JA.txt	試用規約（日）
├🗎 TRIAL_ZH_CN.txt	試用規約（中）
├🗀 3rd_party_licenses	リモートサービスで利用しているサードパーティのライセンス群
├🗀 bin	リモートサービスマネージャーの起動プログラム群
├🗀 conf	リモートサービスマネージャーの設定ファイル群
│ ├🗀 log	リモートサービスマネージャーの出力ログ設定ファイル
│ └🗀 velocity	リモートサービスマネージャーの画面系出力ログ設定ファイル群
├🗀 data	データベースファイル
│ └🗀 certs	ユーザー発行クライアント証明書
├🗀 jre	JVMファイル群
├🗀 lib	設定ファイル群
├🗀 logs	リモートサービスマネージャーのログファイル群
├🗀 shared	ログやデータベースへ接続するためのライブラリー群
├🗀 temp	一時ファイル置き場
├🗀 webapps	リモートサービスマネージャーの設定画面テンプレート群
├🗀 work	一時ファイル置き場
├🗎 Cybozu(R)_Remote_Service _3.1.5_(_cbrc_)_InstallLog.log	リモートサービスマネージャーのインストーラーのログファイル ※ファイル名は、バージョンが「3.1.5」、インストール識別子が「cbrc」の場合の例です。
├🗎 .com.zerog.registry.xml	リモートサービスマネージャーのインストール情報の補助ファイル
├🗎 InstallScript.iap_xml	リモートサービスマネージャーのインストール情報の補助ファイル
├🗎 installvariables.properties	リモートサービスマネージャーのインストール情報の補助ファイル
├🗎 uninstall.exe (uninstall)	リモートサービスマネージャーをアンインストールする実行ファイル
└🗀 resource（Windowsのみ）	リモートサービスマネージャーのアンインストールで使用するファイル群

補足

- 初期設定でのリモートサービスマネージャーのインストール先は、「C:¥Program Files¥Cybozu¥cbrc」（Windows版）/ 「/usr/local/cybozu/cbrc」（Linux版）です。
- クライアント証明書（（リモートID）.zipファイル）は、confフォルダに保存されます。
  クライアント証明書（（リモートID）.zipファイル）には、次のファイルが含まれます。
  🗀 （リモートID）.zip
  ├🗎 （リモートID）.pfx ：クライアント証明書
  ├🗎 Attention.txt ：リモートサービス の操作に必要な情報
- Attention.txtとは
  Attention.txtとは、ダウンロードしたクライアント証明書の中に含まれるテキストファイルです。
  Attention.txtには、リモートサービスへのアクセス方法やクライアント証明書のインポート用のパスワードなど、リモートサービスを利用するために必要な情報が記述されています。

サイボウズ Officeとリモートサービスをあわせてバージョンアップする

次の製品を同時にバージョンアップする手順を説明します。

- **リモートサービスマネージャー：**
  バージョン2.3.0以前を最新バージョンにバージョンアップする
- **サイボウズ Office パッケージ版：**
  Office 9以前を最新版のOffice 10にバージョンアップする

- システム管理者の作業
- ユーザーの作業

注意

- Office 9以前とOffice 10 パッケージ版では、動作環境が一部異なります。作業の前に動作環境を確認してからバージョンアップしてください。
  - 動作環境(サイボウズ Office 10)
- バージョンアップした製品は、古いバージョンに戻せません。作業の前にデータをバックアップすることを推奨します。
  - データをバックアップする(サイボウズ Office 9)
  - データをバックアップする(サイボウズ Office 8)
  - データをバックアップする(サイボウズ Office 7)

システム管理者の作業

- Office製品のみ使用している場合
- デヂエを使用している場合

Office製品のみ使用している場合

お使いの製品の運用状態によって、操作が異なります。
ここでは、Office製品のみリモートサービスで利用している場合を例に説明します。

ステップ1

Office製品をOffice 10にバージョンアップする

- Office 10：Office 7～Office 9をOffice 10にする(Windowsの場合)
- Office 10：サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする(Windowsの場合)
- Office 10：サイボウズ AG～Office 9をOffice 10にする(Linuxの場合)
- Office 10：Office 4以前をOffice 10にする(Windowsの場合)
- Office 10：Office 4以前をOffice 10にする(Linuxの場合)

ステップ2

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップする

- リモートサービス：バージョンアップする(Windows環境)
- リモートサービス：バージョンアップする(Linux環境)

ステップ3

リモートサービスマネージャーに登録しているOffice製品の情報を更新する

リモートサービス：サイボウズ製品を更新する（パソコンや携帯電話からのアクセス）

デヂエを使用している場合

デヂエのみ、またはサイボウズ Officeとデヂエを併用している場合にバージョンアップする操作は、次のページを参照してください。

バージョンアップのパターン	操作
デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップし、リモートサービスもバージョンアップする	Office 10：「デヂエ製品＋リモートサービス」の場合
Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップし、リモートサービスもバージョンアップする	Office 10：「Office 8 plus デヂエ＋リモートサービス」場合)
Office 8以前のOffice製品とデヂエ製品の両方をバージョンアップし、リモートサービスもバージョンアップする	Office 10：「Office 8以前＋デヂエ製品＋リモートサービス」の場合

ユーザーの作業

Office製品だけをお使いの場合、特に必要な作業はありません。
次の運用状況に該当する場合は、リモートサービスのアクセスURLが変更されている可能性があります。

- デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップしている
- Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップしている
- リモートサービスのクライアント証明書を差し替えている

上記に該当する場合は、新しいURLを、リモートサービスの利用ユーザーに連絡してください。
新しいURLを取得した後のユーザーの操作は、次のページを参照してください。

パソコンから製品にアクセスする
携帯電話から製品にアクセスする

補足

- **Office 9.0.0以前のバージョンでケータイの簡単ログイン機能を使用していた場合**
  Office のバージョンアップ後、簡単ログイン機能を引き続き利用するには、各利用ユーザーがログインURLを再送信し、送信されたURLからアクセスしなおす必要があります。
  新しいログインURLを送信する操作については、次のページを参照してください。
  「サイボウズ Office 10」マニュアルの「ログインURLを送信する」